

## 1月の植物

### ヤブツバキ (ツバキ科)

学名 : Camellia japonica L.



写真は竜門峡 2020.12、枠内は「岩根紋り」牛津町 2020.2

幼い頃、家の近くの神社境内にツバキの大きな木があり、花が咲き始めると木に登り花をもぎ取りラッパのように口にくわえ蜜を吸った。真っ赤な花より思い出深い。

ヤブツバキは本州，四国，九州，東南アジアまで分布し，県内では低地から山地まで幅広く見られ，特に離島や沿岸に多い。照葉樹林帯（常緑広葉樹林帯）の代表的な樹木で亜高木層の一員となる。幹は滑らかで白っぽく，葉は厚く，硬く，濃緑色で光沢がある。花期は11月～翌4月。

江戸時代（二代将軍秀忠に各大名が献上）から改良が重ねられ肥後椿など約200の品種が知られ，現在も民家の庭木として植えられているが「花が落ちるので（縁起が悪く）屋敷には植えない」などの忌み的な言い伝えもある。

花は薬用として止血，火傷に用いられ，野草料理としても花弁を天ぷら料理にする。材は緻密で櫛などに利用。種子から椿油が生産され，昔は燈油としても利用されたが，現在は食用，頭髪油として脚光を浴びている。

和名は「厚葉木」「津葉木」に由来し，国字「椿」は「春の盛りに花が咲く」ことを意味する。漢名は「日本山茶」。材は堅くカタイシ，カチャーシなどの方言がある。町木として上峰町，呼子町（現唐津市）が指定している。

（文責 井手義信）

◎引用文献：「樹に咲く花」（山と溪谷社），緑回復の処方箋（朝日新聞社），花の歳時記大百科，牧野日本植物図鑑（以上北隆館），熊本の山野草ハンドブック（熊日新聞社）燈用植物（法政大学出版），茶花・山草（主婦の友社）佐賀の植物方言と民俗，佐賀の自然と植物（以上佐賀植物友の会）